

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅱ-2-4 障がい者の自立支援
---------	----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	障がい福祉課長 長岡 秀樹	電話番号	0852-22-6256
----------	---------------	------	--------------

事務事業の名称	子ども発達支援事業
目的	(1) 対象 障がいのある(疑われる)児童
	(2) 意図 適切な療育等を提供することにより健やかな発達と成長を支援する。
事業概要	○発達障がい児・者に対する相談、療育、就労支援、市町村を中心とした地域体制整備に対する支援等を行う。 ○障がい受容が進んでいないため、法定給付に結びついていない障がい児等に対する専門的な相談や療育指導、保育所等への療育技術の指導を行う。 ○在宅重症心身障がい児・者が安心して地域で生活できるよう、支援体制を整備する。 ○特別支援学校に通う児童・生徒の放課後等預かり事業を実施する。 ○心の問題を抱える子どもが、身近な地域で早期に専門的治療等が受けられるよう、関係機関の連携体制を構築する。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 発達障害者支援センターによる保育士等研修延べ実施回数	目標値		24.0	30.0	36.0	36.0	回
	式・定義 保育士等職員(幼稚園、認定こども園を含む)を対象とした、発達障がいの理解と支援に関する研修を実施した回数。	実績値	15.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	208,976	231,589
うち一般財源(千円)	172,365	177,026

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

○県から事業を委託している発達障害者支援センターにおいては、発達障がい児・者への直接支援から間接支援に重点を置くよう国から方針が示されたことにより、関係機関への支援の充実を図っている。

	H24	H25	H26	H27
関係機関への助言	209件	→ 231件	→ 214件	→ 212件
関係機関との調整会議	119件	→ 200件	→ 258件	→ 235件

6. 成果があったこと(改善されたこと)

○県内2カ所の発達障害者支援センターが企画する研修会への参加者数は年々増加しており、身近な地域において、支援者の発達障がいに対する理解が進みつつある。

○県内7圏域全てにおいて、子どもの心の診療に係るネットワーク会議を組織し、子どもの心の健康相談が実施されるようになった。拠点病院と圏域の連携の強化が図られ、事例をとおして県域内の関係者の連携とスキルアップを図る体制が整備されつつある。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
市町村によっては、関係機関が連携した発達障がい児・者の早期発見、乳幼児期から成人期までの継続した支援が十分に行われていない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
市町村における発達障がい関連部署の情報共有や役割分担の確認が十分に行われていないこと、関係者の理解や認識が不足していることなどが原因。
小規模な自治体では、子どもの発達や障がいに関する専門医療機関や専門性の高いスタッフを確保することが困難。
- ③原因を解消するための「課題」
発達障害者支援センターの地域支援機能を強化し、市町村における支援体制整備に向けた助言、関係者の理解促進や支援のスキルアップを図っていく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

発達障害者支援センター職員の専門的知識を向上させ、市町村の体制整備に係る支援を強化するとともに、乳幼児健診従事者や保育士等を対象とした研修の拡充、「就労支援計画」の策定による成人期支援の拡充を図る。
また、平成28年度から1名増員した発達障害者支援センターの地域支援マネージャーにより、研修の充実を図っていく。

9. 追加評価(任意記載)

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。